

令和2年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程において、工業教育の特色を生かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。 ・自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ・学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実情に即しつつ、工業教育の特徴を生かした専門性の充実と学ぶ意欲を向上させる教育課程を提供する。 ②生徒会行事の運営を通して、生徒の自立心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ジュニアマイスター制度等のさらなる浸透を図り、資格取得に向けた指導の強化を一層図る。 ①計画的な授業改善に取り組み教科を超えた研究授業・協議を通して、全教科で参加型授業の実施・展開・発展をめざす。 ①出前授業などを積極的に実施し外部講師等の活用を進める。 ②学校行事等において、企画・準備段階から生徒が取り組むように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ①資格取得希望者・ジュニアマイスター申請者が昨年度より増加したか。 ①生徒による授業評価の学習努力、意欲的な取組において、8割以上の生徒が「あてはまる」と回答したか。 ①出前授業後のアンケートにおいて、85%の生徒が「参考になった」と回答したか。 ②学校行事等において、生徒が自主的に活動できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍で資格試験が中止・延期され、合格者数も2割減少したが、ジュニアマイスターに昨年同様14名の申請者が出た。 ①「生徒による授業評価」から、生徒が自ら意欲的に取り組んでいることが確認できた。 ①コロナ禍ではあるが、昨年同様に企業から出前授業に来ていただくことができた。60名近くの生徒がインターシップに参加できた。 ②向友祭を実施できた。体育の部は種目の変更や感染防止対策グッズの使用、文化の部では来校者の検温や展示内容の変更を行い、感染者ゼロで終えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ対策を行いながら、できる限り資格試験や出前授業、インターシップの機会を提供していく。資格取得に向けた補習体制を検討していく。 ①生徒による授業評価において、年間を通して努力、意欲的な取組のいずれも80%を超えており、継続的に指導を進めていきたい。 ①コロナ対策を徹底しながら、安全な出前授業を実施できるよう外部講師との連携を一層深める。 ②来年度もコロナ禍が続くと想定し、感染対策をしながら、今までの流れも踏まえつつ新しい学校行事へ進化させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアマイスターなどはこれまで通り推進してほしい。 ・コロナ禍にもかかわらずジュニアマイスター申請者が増し、感染防止対策を講じたうえで出前授業や向友祭を実施できたことは特筆すべきことと思う。 ・ジュニアマイスター申請者の増加は生徒の意欲の表れと思われる。 ・先生方の取組が功を奏した成果と考える 	<ul style="list-style-type: none"> ①最終的な資格・検定の合格者及び、ジュニアマイスターの申請者数は例年近い数を出すことができたが、合格率の向上には至っていない。 ①インターシップは企業側の協力もあり、実施することができ、就業体験活動として2年生33名の単位認定をすることができた。しかし、1年生については事前指導等の期間が取れないため、実施することができなかった。 ①生徒の授業評価から生徒が意欲的に学習していることが確認できたが、更なる意欲向上のため継続的な指導が必要である。 ②感染対策を講じながら向友祭を実施できたことは、生徒にとっても、工夫次第でできるという自信をもたらしたと考える。次年度へ向けては、コロナ禍における向友祭の在り方を、早い段階で検討するべきだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①合格率の低い検定等については、校内での補習体制を検討する。 ①インターシップについては、1年生より参加できるよう、説明や指導の期間を十分にとれるよう検討する。 ①生徒のやる気を引き出す授業展開やICTを用いた授業などを積極的に展開する方法や手法を検討し共有する。 ②県内感染状況やそれによる県教育委員会からの通知を待たなければいけない部分はあるが、何らかの制限なしに行えることはあり得ないと考えて、感染防止対策の強化を講じる。
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身に付けさせる。 ・学校行事や部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、教育相談体制を強化し、情報共有の充実に努めながら、問題行動の未然防止と迅速な問題解決を図る。 ②学校行事や部活動を通して、生徒の自立心や行動力を育成させ、生徒が主体的に、責任感を持って実行できる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導、服装指導等の定期的な実施、企業と連携した取組を行う。 ①いじめアンケート、SNSいじめ相談を活用し問題の可視化に努める。 ①教育相談コア会議を定期的実施し、組織的に迅速な対応をする。 ②各種委員会や部長や副部長、マネージャー等を活用し、職員が生徒に寄添い、各役員が自主的・主体的に 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導、帰宅指導に係る生徒数が減少したか。 ①いじめの発事件数が前年度より減少できたか。 ①教育相談コア会議を定期的実施し、SCやSSWと連携して組織的に生徒対応が行えたか。 ②生徒が自主的に取り組むことにより、各種委員会や部活動の活性化が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍ではあったが、2学期以降は学年と協力し、しっかりと遅刻指導、服装指導を行なえた。 ①いじめアンケートによりいじめを可視化することができ、迅速な対応がとれた。 ①教育相談コア会議は定期的な実施を行い、全員参加のもとで情報共有を行なえた。 ②コロナ禍で委員会や部活動の活動に制限がかかる中、生徒・保護者・職員の協力のもと生徒たちが全 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導を徹底し、2学期は1学期と比べ遅刻の生徒を大幅に減らすことができた。 ①今後はクラスでのいじめアンケート以外にも部活動でのアンケートも行うとより一層のいじめ防止に繋がる。 ①コア会議の動きをあらかじめ全職員に周知し、極力他の会議と重ならないよう協力を仰ぐ。 ②コロナ禍で活動が制限された場合、できる範囲で生徒が自主的な活 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組は評価に値する。卒業後社会人として必要となる資質の指導を一層お願いしたい。 ・遅刻はどの程度減ったのでしょうか。服装については、見苦しい生徒は見かけなかった。 ・いじめは悪であるということを深めさせたい。 ・部活動ごとのいじめアンケートは重要かと思う。アンケートを書かせる際は配慮が必要。 ・コア会議はたいへん重要な取組と感じる。できる限りの調整を。 ・コロナ禍では生徒の種々の活動を制限せざるを得ないと思うが、感染防止対策を講じたうえで今後も引き続き指導して 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻指導の結果、特に回数が多い生徒を半減させることができた。頭髮・服装については年間を通じて個別指導が必要な者がおり、今後も継続的な指導が必要と感じる。 ①いじめについてはセクハラや部活動に関する事案が増加傾向にあり、対応が必要である。 ①教育相談コア会議により支援の必要な生徒の情報共有を行い、適切な支援を行なえた。 ②特に部活動においては、大会等の開催中止などもあり、大きな制約を受け満足な練習もできない状況が続いたが、できる範囲のことを一生懸命行っている姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①特定の生徒が繰返し指導を受けている。さらに一段上の指導を行なうことを検討する。 ①セクハラ防止教育や、部活動内での人間関係についての指導を行なうことを検討する。 ①特に1年生に支援が必要な事例が多く、早くから手厚い支援を行える様に教育相談コア会議を充実させる。 ②今後も、特に運動部においては感染防止を第一に考えた活動をするようになる。感染防止に係る意識啓発を一層充実させていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				取り組むように導く。		力で自主的・主体的に活動することができた。	動を保障する環境づくりを行うことが必要。	ほしい。 ・運動部においてはさらなる感染対策が必要だろう。		
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。 社会的・職業的自立に資するよう、労働観、職業観を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関と連携し、各種進路に応じた最新、適切な情報を得て、生徒の主体的な判断、行動力、及び、社会人としての規範意識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 休日の外部諸機関の見学や、放課後等の時間を利用した企業の就業や大学等の授業の実践を通して、体験を通じた進路選択ができるように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員、保護者からの指示待ちではなく、主体的に進路選択の方式を模索し、行動実践できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の外部機関との連携が制約を受ける中で、できる限りの進路活動ができた。昨年同様、進路講演会、放課後進路セミナーを軸として、生徒の進路意識の啓発に取り組めた。 卒業生については、208名中、結果待ちを除き、205名の進路が確定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携強化については、一層のPRを行い、末永く、拡幅された関係構築に努めたい。 進路活動の最中、求職活動中や、内定後の生活全般において、学業だけでなく普段の生活指導に課題があり、意識面での指導を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあってこの進路指導の成果は素晴らしい。評価に値する。 来年度も進路意識の啓発に取り組んでほしい。 進路講演会やセミナー等外部機関との連携をオンライン化し、ZOOM等で実践できれば良いと思う。 SDGsへの取組の優良な企業への就職が増えることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあって様々な制約を受ける中で、できる限りの進路支援は行えた。外部機関との連携も、感染対策を講じる中で実施することができたのは、関係各機関の協力の賜物と感謝したい。 進路指導はふだんの生活指導と直結する部分があるので、生徒とのコミュニケーションを上手にとることで良好な人間関係を築いておくべきと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等と連携して、一層の感染防止対策を講じたセミナー等の開催。 多様な生徒を指導するため、ふだんから組織的な生徒指導を行う必要がある。 教員向けの企業説明会や進学説明会の情報を随時わかりやすく提供すること、また、説明会等への積極的参加を、進路グループ以外の担任等にも広く呼び掛ける。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域とともに育つ向工」を実現するため、本校のホームページ、説明会等で教育活動を発信する。 ②「地域で活躍する向工生」を育むために、地域や企業との連携事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種イベントで施設・設備を活用し、学校活動や魅力を積極的に発信し中学校や地域への広報活動を行う。 ②生徒自らが各種イベントや企業との連携事業に参加・運営することで自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校での行事や活動をホームページ等で積極的に発信することができたか。 ②各種イベント、学校活動や地域の活動に生徒が積極的に参加協力し、自ら考える力やコミュニケーション能力、ものづくり教育を育むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍により体験教室などが中止され学校説明会については人数制限及び在校生による運営が行えず、広報活動に苦慮した。 ②様々なイベントが中止となる中でラジオやテレビ等で部活動の紹介を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページによる学校紹介を充実させ中学生等に新しい情報を発信する必要がある。 ②参加できるイベントが制限される中で、感染防止を考え地域への貢献活動やコミュニケーション能力の向上を図るかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協働は非常に大切なことだが、コロナ禍の状況下ではやむを得ないと思う。 できる範囲で地域や企業と連携し活躍の場を実現できるよう期待する。 ラジオやテレビのほかSNS等による情報発信も取り入れられるとよい。それにより適切な情報発信の指導の一助になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍で活動が制限される中、ホームページを活用し広報活動を行った。人数制限される中、説明会にて本校の教育活動を適切に情報発信することができた。 ②地域で活躍する向工生を育むために、テレビやラジオを活用し紹介を行うことで向工をより理解してもらえよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校紹介の動画発信などホームページを有効活用していきたい。そのためにホームページ作成について担当者だけでなく、誰でもシステム利用し情報発信できるようにしていきたい。 ②校内外のイベントだけでなくテレビ・ラジオなど様々な場面において、生徒が自主的に参加、活動できるよう指導していく。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 校内の情報機器の整備と防災教育を推し進め、安全安心な教育環境を構築する。 全ての職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が校内美化に対する意識及び安全並びに防災に対する意識を日常のあらゆる場面で持ちながら行動できるように環境づくりに取り組む。 ②事故防止研修を行い、事故不祥事の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①普段からICTを活用した生徒への連絡を行うことで、機器等の利用に慣れる。 ①全校運動として「整理、整頓、清潔、清掃、躰、安全」の6S運動を展開し、安全、環境教育の推進を図る。 ②私費会計に関する情報を整理し、職員に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①緊急時の学校からの連絡を各生徒が受け取り、適切な行動をとることができたか。 ①「整理、整頓、清潔、清掃、躰、安全」が昨年度より身に付き、実践されているか。 ②事故や不祥事は起きなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①図書室の新刊案内をClassroomで見、借りに来る生徒がいるなど、classroomを活用した生徒への情報伝達を行うことができています。 ①実習や清掃等にかかる時間が限られているため、6S運動の指導やそれが身につけているかを確認することが難しかった。 ②事故や不祥事は起きていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①携帯電話の更新後にclassroomのインストールをしていない生徒が見られる。定期的にインストール状況を確認したい。 ①限られた時間の中でも、生徒が自主的・主体的に取り組むよう意識を向上させる。 ②研修等を継続することで職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・classroomが生徒たちにとって必要なものであるという意識醸成と、興味がわくコンテンツを包含するものであるように、工夫が必要と思う。 ・ICTに関しては一層の努力が必要と感じる。 ・6Sの取組は一層の推進をお願いする。 ・オンライン授業を想定し、6S運動は自宅でも身につくような指導をしてほしい。 ・「6S診断チェックリスト」で評価できる仕組み作りも一案と考える。 ・災害時に学校を開いてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①classroomを利用し、学校から生徒に情報を提供することができた。また、修了式を教室のテレビで見られるようになるなど、ICT活用が進展している。 ①コロナの影響もあり、6S運動が身につけているか確認することが難しかった。 ②今年度は、私費会計に関する事故や不祥事は起きなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①classroomが学校生活に必要なものである、と生徒が感じられるような活用を考えたい。 ①指摘されたように各自でも評価できる「6S診断」のチェックリスト等の作成を検討する。 ②研修等を継続することで職員の意識を高める。